

委員（土木工学）による鈴木遺跡保存管理等用地地下構造物に関する現地確認 コメントまとめ

開催日時	2025年7月16日（水）9：20～10：20
開催場所	鈴木遺跡保存管理等用地
出席者 （敬称略）	<p>&lt;委員&gt;            国史跡鈴木遺跡整備基本計画検討会委員（土木工学）            &lt;事務局（小平市 地域振興部 文化スポーツ課）&gt;            文化財担当係長            文化財担当学芸員            &lt;（株）パスコ&gt;            職員1名</p>
次第	

#### 議事内容

##### <既存地下室を利用した展示空間について>

現地を視察した国史跡鈴木遺跡整備基本計画検討委員会委員（土木工学）より、既存地下室の柱と壁が撤去され正方形の空間があることから、この既存地下室の利用した展示空間についての提案があった。

##### ・円筒型

既存地下室を利用して円筒状の展示空間を作成する。円筒内には壁面に沿って螺旋状に通路（スロープ）を作り、壁面に地層のレプリカやVRによる展示を行うことで、通路を下りながら鈴木遺跡の文化層を体感できるようにする。

作成する工法としては、既存地下室を埋めている土を掘りだし、その中にプレキャストの円筒状のリングを落とし込む。構造上安定性が高い。

##### ・U字型

既存地下室の空間を掘り下げ、既存地下室の壁に沿ってU字型の通路を作り、展示空間を作成する。U字型で作成する場合には壁面が平面になるので展示を大きくできるメリットがある。掘削土量は少ないが、構造設計上は土圧を直接受けるので、トータルでは空間のサイズの割にはコストがかかる。既存地下室の壁を利用する場合は、新設構造を簡素化・コストダウンできるが、既存壁を構造壁として性能評価することが難しい。仮に評価できても、その維持管理も含めたライフサイクルコストが問題になる。

##### ・半円型

既存地下室の空間を半円状に掘り下げ、半分を通路にする。半円形は力学的に不利でU字型同様に既存地下室の壁を利用する場合は、構造壁としての性能やライフサイクルコストが問題になるが、それらの問題を解決できる場合は、直線部を既存壁、半円部を新設という形で設計すると、構造面ではU字型よりは合理的になるかもしれない。

##### 展示空間の排水

- ・展示空間への入り口を一段上げて外から水が流入しないようにする。
- ・雨除けに屋根を設ける必要があるかもしれない。

- ・底部を土仕上げにして排水溝を設けたうえで、荒天時等水位が上がった場合はポンプアップで対処する。

#### **確認事項**

- ・円筒状は土木的には構造的に安定しているが、建築基準上の評価が不明なため、事前に建築主事に確認する必要がある。
- ・建築主事に確認をする際は、円筒状の土留を作るときにはどう考えたらいいか、円筒の断面の力学的なもの considering して設計してよいかという聞き方をした方がよい。

#### **その他**

- ・スロープによるバリアフリー導線も検討が必要ではないか
- ・地下の展示空間は湿度が高くなるため、地層のレプリカ等展示物が湿度に弱いようであれば対策が必要。どの程度の環境を求めるのかを整理されたい。